

日和田中生をもっとよく知るための小さな物語

いまいま (びより) 日和

郡山市立日和田中学校  
「日中だより」 第 9号

〒963-0534  
福島県郡山市日和田町字中林27  
Tel 024-958-5496 Fax 024-958-2121  
メール:hiwada-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp

発行者 校長 中村隆志  
発行日 平成26年2月10日(月)

～日和田中の笑顔～

- あ 明るく元気に爽やかに  
い いつどこだれ  
さ 先気づいた私から  
つ 続けてつなごう心の絆

第13回

平成26年2月8日(土)日和田地域交流センターに於いて

中学生のインターンシップ体験発表会

中学生のインターンシップ体験発表会が開催されました。

郡山北ロータリークラブの早川会長様をはじめ、インターンシップの大切さを認識され生徒達を温かく迎えてくださっている事業主さん達が貴重な発表の機会をつくって下しました。

参加したのは、鈴木初佳さん、音羽梨沙さん、福田くるみさん、佐久間良樹さん、松本悠希さんの5名です。

本校でも、職場体験学習としてインターンシップをとり入れ、いろいろな職場を訪問し地域の皆様と実際にふれ合う中で



仕事の喜びや厳しさ、人と触れ合う心配りやおもてなしの心 等、大切なことを学ぶことができました。

子どもたちを受け入れる、事業所の皆様も、どうしたら、子どもたちにわかりやすく仕事の喜びや厳しさを伝えられるか?何をどのように体験させてあげればいいのか?安全に配慮しつつも、なるべく実際の仕事を直に体験させてあげたいと悩み工夫し全力で受け入れてくださっているというお話を、受け入れ事業主の代表である(株)三善自動車工業の渡辺社長からおうかがいしました。

生徒達が、近い将来福島の復興そして社会に貢献できる若者に育ってくださることを願って今後ともインターンシップを育てていきたいという熱い思いを参加くださった皆様から感じる事ができました。

二月七日（金）の  
全校集会で表彰  
しました。



### ◎ 郡山市小中学校書き初め展

**中学校長会長賞** 星野美聖さん、安斎祐乃介さん

**特選** 田中陽一朗さん、國分亜美さん、椎根諒夏さん  
高野美悠さん、大内 茜さん、桑原美鈴さん

**入選** 阿部美咲さん、藤田実優さん、橋本玲司さん、伊藤沙南さん  
佐久間美保さん、渡邊夏帆さん、桑名寛和さん、星龍太郎さん  
渡邊康介さん、酒井優花さん、佐藤江梨香さん、鈴木里彩さん  
國分優花さん、宗方しおりさん、中嶋彩乃さん、厚美ななさん、  
佐藤朱梨さん、佐藤美桜里さん、椎根敏弘さん

### ◎ 福島県書き初め展

**金賞** 橋本玲司さん、伊藤禎恵さん、大内 茜さん

**銀賞** 佐藤結衣さん、鈴木初佳さん、志賀綾美さん、遠宮咲綺さん

おめでとう！

## 1・2年生 期末テスト

今回の期末テストは学年末の評定にもかかわる大切なテストになります。体調に気を付けてテスト勉強をしっかりやりぬき試験に臨みましょう。

|          | 1校時 | 2校時    | 3校時 | 4校時 | 5校時 | 6校時 |
|----------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|
| 2月12日(水) | 英語  | 体育/技.家 | 国語  | 社会  | 授業  | 学活  |
| 2月13日(木) | 音/美 | 数学     | 理科  | 授業  | 授業  | 授業  |



人生には、とっても大変なつらい時期が何回か訪れますが、「大変」と書いて【大きく変わる】と読み取ることもできますね。

「苦しいからもうちょっと生きてみよう！」  
そのうちなにかいいことが起こるかも・・・

## 心の泉

つらい日々も、  
笑える日につながっている

渡部和子

「人生は学校で、そこにおいては、幸福より不幸のほうがよい教師だ」といった人がいます。多分、誰もが、この言葉に納得する経験をしているのではないのでしょうか。

つまり、現状よりも良くなる状態を「発展」と呼ぶのだとすれば、少なくとも人生においては、順風満帆の生活よりも、山あり、谷ありの人生、

失敗もあれば挫折も味わう、苦勞の多い人生から立ち上がる時のほうが、発展の可能性があるということなのです。  
(中略)

「死にたいと思うほどに苦しい時、『苦しいからもうちょっと生きてみよう』とつぶやいて『苦しい峠にいつか越えて』と、そこから必ず下り坂になります。そして、その頂点を通り越す時に味わった

### 苦しい峠でも必ず、下り坂になる。

人はどんな険しい峠でも越える力を持っている。そして、苦しさを乗り越えた人ほど強くなれる。

痛みが、その人を強くするのです。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災は、確かに千年に一度といわれる大震災でした。これによって、日本の未来への発展の青写真は大きく変わりました。個人の生活においても、家、家族を失い、または崩壊し、職を失った人たちは遠退いたかに見えます。

しかし、にもかかわらず、この震災によって未来への発展の道が閉ざされたと考えてはならないのです。後ろ向きでなく、前向きに考える時、この災害があつたゆえに、新しい知恵が必要とされ、人々の考え方にも革新が迫られています。長い目で見た時、この災害もきっと、未来への発展につながってゆくことを信じています。

出典「置かれた場所で咲きなさい」より  
ノートルダム清心学園理事長 渡部和子

【1・2年生期末試験のため2月12日まで部活動がありません！

2月13日以降の下校時刻は午後6：00となります】